

GT Asia Series Rd. 5 & Rd. 6  
in  
富士スピードウェイ



東 徹次郎  
TOHJIRO AZUMA

タイヤに悩まされ、ホームコースでまさかの苦戦！！

シリーズトップで日本ラウンド終了！！

- ・開催サーキット：富士スピードウェイ（4.563km）
- ・チーム：AGE♂AGE♂RACING
- ・マシン：Ferrari 458 Challenge
- ・メンテナンス：東名スポーツ
- ・カーナンバー：#70
- ・クラス：GTM
- ・ドライバー：1st NAORYU 2nd 東 徹次郎



## 予選（7月13日）

Rd.5 ◆Weather : 曇り ◆Course : ドライ

Rd.6 ◆Weather : 曇り ◆Course : ドライ

前回のレース同様今回も自分が最初の予選を担当し、後半の Rd.6 を NAORYU 選手が担当しました。

前日の金曜は一度もちゃんとしたアタックが出来ていなかったなので、この予選がぶっつけ本番のような感じです。

しかしながら、岡山の時も NEW タイヤを履いたら一気にマシンバランスが良くなってタイムも更新出来たので、少し心配はあるものの良い緊張感で予選を迎えることが出来ました。

まずはコースインしてすぐに、前車との位置取りを注意していました。そして計測 1 周目からアタックに入っていきます。

しかしリアタイヤに比べ、フロントタイヤがイメージより全然グリップしないので、そのまま 2 周目もアタックを続けます。

が、その後も自分の NEW タイヤでの想定していたグリップ感に遠く及ばないので。

特に高速コーナーである 100R がアンダーステアで、かなり使い切った中古タイヤで走っているような感覚なのです・・・。

結局その後も計測 1 周目のタイムを僅か更新するくらいで、走り自体もアンダーステアに苦しんで高速区間を全く速く走ることが出来ず、クラス 4 位という結果で予選を終えました。

NAORYU 選手の予選に向けて、アンダーステア対策で足回りのセットを若干変更するも、アンダーステアは全く解消されず同じく苦しい予選となり、こちらもクラス 4 位で予選を終えました。

自分が走った方の予選タイヤは NAORYU 選手よりもラップ数も少し多かったのですが、フロントのインサイドに亀裂まで入ってしまっていて、タイヤのトラブルとしか言い様がない苦しい予選となってしまいました。

**Rd.5 予選タイム : 1'45.981 総合 13 位 (クラス 4 位)**

**Rd.6 予選タイム : 1'46.020 総合 13 位 (クラス 4 位)**



© Naotake Onda



Fuji International Speedway

## Rd.5 決勝 (7月13日)

◆Weather : 曇り

◆Course : ドライ

今回も最初のレースは自分がスタートドライバーです。

今回自分たちは3連勝中ということもあり、前回よりも更に厳しいハンデが付けれられ、規定のピットストップに更に15秒が加算されていました。

今回予選を見てもタイヤの状態が気になりますし、前回の岡山より更に20kgのウェイト追加なので、自分はピットストップまではフロントタイヤに細心の注意を払って走行しなければなりませんでした。

ドライバー交代の際にピットに戻ってしまえばフロントタイヤの消耗具合もわかりますし、大丈夫なら後半のNAORYU選手にプッシュしてもらえばと思っていましたので、とにかく自分の仕事はいかにフロントを消耗させないで前に食らいついていくかでした。

スタートはクラス4番手から。

まずはフォーメーションラップでもフロントにしっかりと熱が入るようにコントロールし、スタートに備えます。

いつもスタートは得意な方ですので、ここでもポジションアップを狙っていました。

案の定うまく加速させることが出来、1コーナーまでにインから前走者を抜いていきます。

そして1コーナーを一番イン側で回って、立ち上がりでは2位のポジションへ。しかし、ここで思わぬ不運が・・・。

一番アウトにいた16号車がインに切れ込んだので真ん中にいた21号車がそれを避けるのに自分の方へ当たる勢いで寄ってきたのです。

とっさに自分もイン側の芝生ギリギリまで避けたのでクラッシュにはなりませんでした。左のミラーが軽く接触したようで少し閉じてしまい、21号車を避けるのに減速したせいで、結局ポジションを5位まで落としてしまいました。

1位から4位までがポルシェという状況で、オープニングラップを終えていきます。

2周様子を見たのですが、ウェイトハンデの軽いポルシェには立ち上がりで離されてしまうので、ストレートでスリップストリームに入ることすら出来ません。その為、最終コーナーの進入で15号車のインサイドに飛び込み、4位のポジションは奪い返します。

ここからはブレーキングでもコーナー旋回時でもフロントタイヤを労わり、

その中でプッシュしていきます。

しかし前走者のレースペースからはやはり若干遅れてしまうので、何とか視界に収まる位置で後半に繋いでいきたいと考えていました。

自分もプッシュすればついていけますがタイヤを考えるとそのプッシュが出来ないだけに、ストレスの溜まる走行が続いて自分との戦いでもあります。

何とか視界に入る位置では食らいついていき、単独の4番手のままドライバー交代のピットへ。

ピットのミスは無く、15秒のタイムボーナスを消化して今度はNAORYU選手が再びコースへ。

このときは前半同様クラス4位だったのですが、ここで自分たちに運が向いてきます。

何とトップの車両がペナルティーを受けたのです。

そして何と、トップ快走中であったこの車両、最後は失格になってしまいます。

これで単独の3番手へ。

NAORYU選手も安定したペースで走っていましたので安心して見ていることが出来ました。

このラッキーにも助けられ、連勝こそ逃したものの開幕戦からの連続表彰台記録を5に伸ばして3位でレースを終えました。

## Rd.5 : クラス 3 位 (総合 11 位)

ベストタイム : 1'47.188



## Rd.6 決勝 (7月14日)

◆Weather : 曇り ◆Course : ドライ

Rd.6 のスタートは NAORYU 選手が担当します。

このレースはリアの車高を調整したりして、アンダーステア対策を施して臨みました。

今回は前後ともに NEW タイヤでのスタート。

NAORYU 選手もコースインラップ、フォーメーションラップとしっかりとフロントタイヤに熱を入れていきます。

スタートも順調にいき、ポジションキープの4番手のままオープニングラップを迎えます。

マシンのバランスも良くなったのか、トップ3台とほぼ変わらないペースを作れていたのも、このままトップグループについていければ後半チャンスがあると確信していました。

ピットでのタイヤ次第で自分も後半プッシュ出来ますからね。

そんないろいろなイメージを作りながら自分も交代の準備を始めだした瞬間でした。

5周目に入った1コーナー手前でまさかの左リアタイヤがバースト・・・。

7速に入った瞬間でしたので速度にして約270km/hです。

NAORYU 選手の冷静な対処で奇跡的にクラッシュせずに済みましたが、本当に危険なシチュエーションです。

結局このバーストでマシンは走行不能となり、僅か5周で自分の出番は無いままリタイアとなってしまいました。

NAORYU 選手に怪我が無かったことが不幸中の幸いでした。

**Rd.3 : リタイア**

**ベストタイム : 1'47.616**



## 反省

今回は終始タイヤに悩まされたレースとなりました。  
特に予選では4位という結果が非常に悔しいですしアンダーステアを走りでもカバー出来なかったのが、自分の引き出しを今以上に多くして、より器用にならなければと感じます。

そしてフロントタイヤのインサイドが剥がれてしまったので、走りでもそれは対処出来たかもしれないですし、これを経験として今後の自分のレース人生にしっかりと活かしていきたいと思えます。

決勝のスタートは今回も良かったのは自信になります。  
ただ、当てられそうになってポジションを落としたのは不運でした。  
自分の中ではもてぎ、岡山、富士といろいろな状況での優勝、そしてレースを経験することが出来ました。

やはり‘勝つ’ということで自信にもなりますし、だからこそより自分らしさを出して攻めることも出来ました。

また、今回のRd.5は攻めてでも前についていきたいという気持ちを抑えながら、しっかりタイヤマネジメントをする走行も出来ましたし、自分にとっても実りある日本ラウンドになりました。



## 最後に

今回は都心からも近い富士ということで、たくさんの方々に応援に来て頂き、本当に有難うございました。

その中で表彰台には上がったものの、優勝出来なかったことは非常に残念です。Rd.6のタイヤバーストでのリタイアは本当に残念でしたが、NAORYU選手が無事で本当に安心しました。

この後の海外ラウンドへは行かないので自分たちのGT ASIAはここで終了の予定です。

その為シリーズチャンピオン獲得は厳しいと思いますが、開幕戦からの今回の富士ラウンドまでだけで言えば、自分たちがシリーズチャンピオンです。

この経験と勢いを今後に活かし、今年後半も全力で頑張っていきたいと思えます。

今回このようなチャンスを与えてくださったNAORYU選手、本当に有難うございました。

自分のレース活動としては、ここからはSUPER耐久シリーズのST-3クラスへIS350で参戦します。

パートナーはGT ASIAでは監督としてお世話になり、現役GTドライバーの佐々木孝太選手と、トレーシングスポーツ代表の兵頭選手、そして2012年にチャンピオンを獲ったときのパートナーでもある橋本選手です。

早速今週末にツインリンクもてぎでレースですので、優勝出来るよう全力で頑張ります。

どうぞ、今後ともご支援ご声援の程、宜しくお願い致します。

2013年7月18日

東 徹次郎

